

探索研究

テーマ：カニクイザルのホルマリン固定臓器標本の活用

■ 背景

臓器の組織を観察する際には、ホルマリンで固定⇒パラフィン包埋化⇒数 μ m程度の厚さに薄切⇒染色して組織の病理組織学的検査の実施が一般的な手順である。近年は組織の遺伝子発現解析にも利用されている。

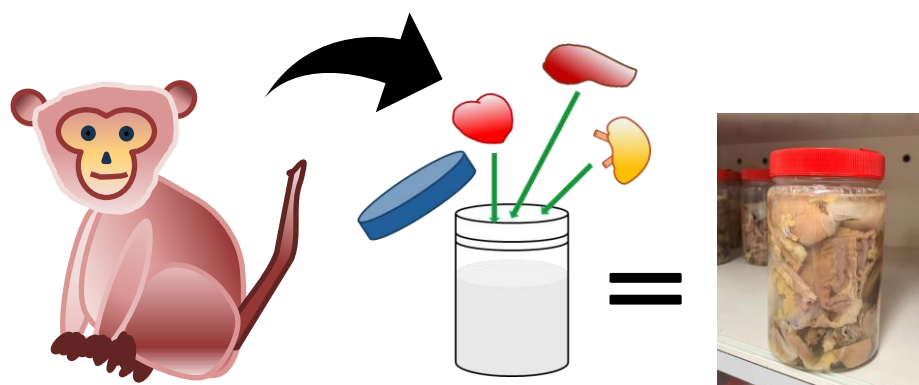
ウシ、ブタ、マウス、ラット、ウサギ、モルモットなどの動物から摘出した研究用臓器は試薬メーカーなどから市販されている。カニクイザルは遺伝的に最もヒトに近いため、病態解明や医薬品の研究開発には欠かせない動物種である。その一方で、カニクイザルの飼育施設は限られていること、およびカニクイザルはとても高価であるため、カニクイザルの臓器の入手は容易ではない。

本学動物生命科学研究センターでは常時約600～700頭のカニクイザルを飼育しており、民間企業やアカデミアなどの外部研究機関と様々な研究に活用している。試験終了後のカニクイザルの臓器を保存している。



■カニクイザルの臓器

動物生命科学研究センターが保存しているカニクイザルの臓器は、肝臓、腎臓、肺、心臓、子宮、脳、卵巣、胎盤、脾臓、胸腺、胃、小腸、回腸、結腸、胎盤、精巣、死産仔などである。数は少ないが腫瘍組織も保有している。1頭毎に各臓器を保存しており、臓器標本数は500個体以上である。臓器を摘出した各個体の情報は、雌雄、死亡時年齢、産地（輸入国）、研究履歴、死亡理由などを体系立てて管理・保存しており、標本情報を遡ることが可能である。



■ 共同研究や標本の提供など

本学保有のカニクイザル組織標本を用いた共同研究はもちろん、MTAによる組織標本の提供も可能ですので、ご興味がある企業・団体様はお問い合わせいただければ、ご相談に応じます。また、アカゲザルや日本サルにつきましても一部の臓器は保存しておりますので、相談にのることは可能です。

■ 動物生命科学研究センターのホームページ

<https://rcals.jp/>